

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 小倉中央 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思えます。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

(2) 本校の学力調査結果の分析

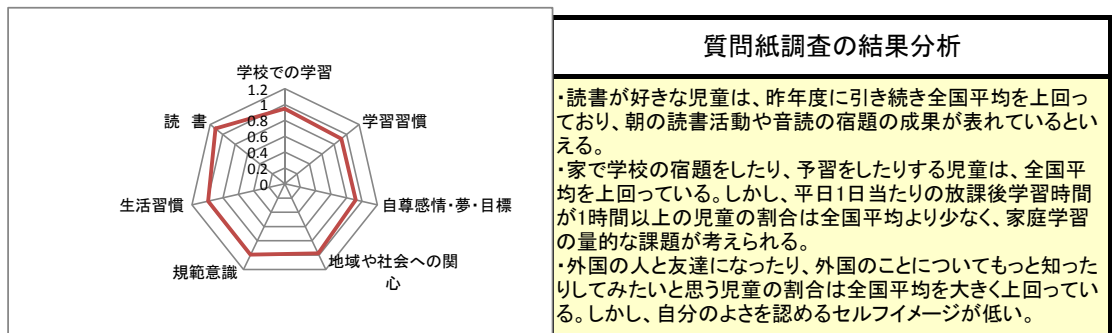
国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均を下回っているが、目的や意図に応じ内容の中心を明確にして詳しく書く問題は正答率が高かった。学年に応じた漢字を正しく書くことに課題があり、漢字練習を継続的に行う必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書く問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く問題については、無回答率が高かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っている。物語の登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える問題の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える問題は、正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書く問題は、正答率が低かった。	

算数A	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っているが、正五角形は五つの合同な二等辺三角形で構成できるということをよく理解している。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	小数と整数の加法を計算する問題や正五角形の構成に関する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	資料を二次元表に分類整理したり、表の合計欄に入る数を求めたりする問題の正答率が低かった。	

算数B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均を下回っているが、全国平均に比べて無回答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	料金の差を求めるために、示された資料から必要な数値を選び、その求め方と答えを記述する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	問題に示された二つの数量の関係を一般化して捉え、そのきまりを記述する問題の正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・朝の読書活動や音読の宿題、全校一斉音読等の取り組みは今後も全校で継続して実施する。 ・学習補充特設時間を継続して実施する。また、各学年・各学級の実態に応じて、国語や算数を中心にT2指導を行う。 ・学年に応じた漢字の力を付ける課題プリントに取り組む。 ・昨年と同様、全学級の授業改善に取り組み、教師の授業力を向上していく。 ・各教科の学習において、友達と話し合う活動を必ず取り入れて、人と交流する機会を設定したり、小中連携の取り組みを推進したりすることで、自尊感情を高め、夢や希望をもって生活しようとする態度を育てる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・「家庭学習チャレンジハンドブック(活用編)」を全校で活用して、授業以外の勉強時間の増加への意欲を高める。また、学校通信等を通じて、家庭への学習時間確保の啓発を行い、保護者と連携した取組を行う。
